

はじめに

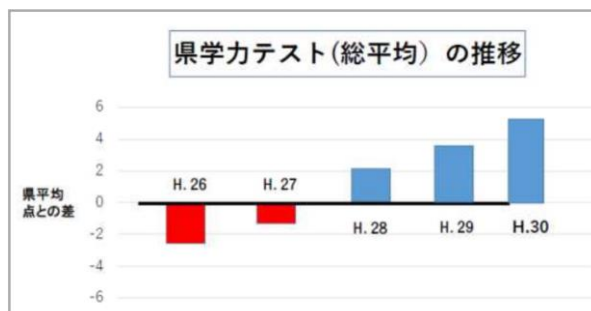
木次小学校長 若 槻 徹

私が赴任した4年前の木次小学校には、校内LANはなく、ICT機器もほとんどありませんでした。ベテランの先生方が退職され、若い先生方が増えつつあり、子どもたちの学力向上が学校の課題となっていました。そこで、「授業でのICT活用」を核として、学力向上を図っていこうと考えました。教室のICT環境を整えながら、学力向上をめざして、学校全体で授業改善を図り、各自が授業力を高めていく！という取組を始めました。

ちょうどPC更新の機会があり、普通教室のICT環境の整備を進めました。市の予算で各教室に実物投影機、壁掛けプロジェクター、スクリーンの3点セットと教師用タブレット端末を整えました。そして、児童用タブレットは、学校独自の予算やパナソニック教育財団の助成を得て、少しずつ台数を増やし、32台を整備し、1クラスで1人1台の環境を実現することができました。デジタル教科書や授業支援アプリも学校独自で整備してきました。

校内研究としては、2年前から「思いや考えをもち、共に学び合い、のびゆく子どもの育成」という主題を掲げ、研究実践を開始しました。1年目は、学習の中に効果的にICT活用を取り入れようとするいろいろな教科や場面で全教員が研究授業を行いました。そして、2年目の今年度は、研究教科を絞り、授業で教師が活用する段階から、情報活用能力の育成を意識し、授業の中で児童が活用する段階へと研究のレベルアップを図ってきました。

そして、学力向上面では、右図のように成果が見られました。これは、ICT活用を取り入れながら、熱心な教職員が全校体制で授業改善に取り組んだ結果であると私は考えています。



本校の研究の特色の一つ目は、学力向上はICT活用だけでなく、**授業づくりが重要である**ことを校内で確認し、授業改善のポイントや基本的な授業の流れ等について校内で共通理解を図り、授業力向上に取り組んできたことです。これは若手の先生がベテランから学ぶことが多かったです。

二つ目は、児童が使うためには、まずは教職員が使うことに慣れる必要があると考え、ICT推進部が中心となり、できるだけ**職員研修の機会**を作るようにしました。各自が行っている日頃の授業等でのICTの活用例を紹介し合ったりしました。これは若手の先生たちの得意な面が活かされました。

三つ目は、探求の道具としてICTを使おうとする意識を高めていくために、授業だけでなく教師や児童が日頃から活用する環境を作っていく**ICT活用の「日常化」**を進めていることです。担任用のタブレット端末は、日頃から学級の写真や動画の記録用としてよく使われています。



今年度の研究推進には、指導講師としてシンクタンク未来教育ビジョン代表の鈴木敏恵先生と放送大学教授の中川一史先生に大変お世話になりました。



鈴木先生は、二十年来の知人で、「意志ある学び」を基本理念として「ポートフォリオ」「プロジェクト学習」を両輪とする未来教育を全国に提唱していらっしゃいます。私自身も先生の仕事に長年関わらせていただいています。木次小学校にも何度かお越しいただき、子どもたちへの講演や本校の総合学習の指導にあたっていただきました。今年度は6年生の総合学習のアドバイザーとして直接関わっていただきました。

中川先生は、現在、全国の学校現場の情報教育の指導に多く関わり、日本の情報教育を推進していらっしゃる有名な先生です。理論的な話だけでなく、現場の先生たちに分かりやすい、具体的な指導をしていただける方です。島根の全国大会を応援したいとおっしゃって本校の指導助言に今年度から関わっていただき、年間3回も授業研究会の指導助言をしていただきました。

ここに、今年度の研究実践をまとめた研究集録が完成しました。研究主任の内田先生を中心として、全校体制で研究に取り組んだ成果です。そして、研究授業や初任研での示範授業やICT活用の研修も熱心に行われました。指導法の改善に向けてみんなで取り組む教員同士の学び合いの姿がたくさん見られたことも大きな成果だと私は思います。

さて、今年の10月18日には、JAET全国大会島根大会の授業公開が木次町内の5小中学校と県立三刀屋高校で開催されます。町内の他の学校も雲南市教育委員会の協力で機器が整備され、整った環境での研究推進が現在進められています。多くの関係者の皆様のお陰で、全国大会のための準備が進められていることに重ねてお礼を申し上げます。

本校でも、JAET全国大会の授業公開を控え、子どもたちの主体的な学びが展開される授業をめざし、教職員自身も共に成長する意識をもち、これからも日々研鑽に努めていきたいと思ひます。

最後になりましたが、今年度、本校の研究実践にご指導ご助言いただきました鈴木敏恵先生、中川一史先生をはじめ、学力向上訪問指導でご指導いただきました出雲教育事務所西裕里指導主事様、「特新担」訪問指導でご指導いただきました山本勉企画幹様、初任研指導でご指導いただきました島根県教育センター 深田剛生指導主事様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



あ と が き

「タブレットを借りにきました。」

日常茶飯事に見られる子どもたちの姿です。私も個人用のタブレットを数年前に購入しましたが、未だに、「このボタンは押していいのかな?」「使い方を間違えて壊してしまったらどうしよう。」と不安になることが多々あります。木次小学校の子どもたちは、学習を深めるスキルとして、ノートや鉛筆のごとく身近な存在とし、使いこなしています。このことは、子どもだけでなく、先生方にも言えます。

私は、今年度本校に赴任してきました。まず驚いたのは、各教室に設置されたプロジェクターと書画カメラ。そして、それを活用する先生方。若い先生方は勿論、自分と同年代の先生方が、日常的に ICT 機器を授業に取り入れ、インターネットを駆使し授業を進めておられる姿にジェネレーションギャップを感じました。今までの私は、ICT 機器をセッティングするのに時間がかかり、セッティングをしたのに、何故か映らず右往左往することが多々あり、「もう、いいわ。」とさじを投げるがよくありました。今日のような状況になるまでには、先生方の研修と努力があればこそと思いますが、この環境を整えてくださった校長先生のご尽力は、大だと思えます。

本校のめざす学校像である「みんなで成長する楽しい学校」をめざし、本研究は深まっていきました。研究主題の「思いや考えをもち、共に学び合い、のびゆく子の育成」にも表れていますが「みんなで」「ともに」というこの言葉が一人一人を大切に作る校長先生の信念を表し、私たちが向かうゴールを示していると思えます。「特定の子どもだけでなく、全ての子どもに力をつける」「互いに切磋琢磨することにより、よりよい効果を生み出し最終的に高まっていく」その目的は、ほぼ達成されたと思っています。

若槻校長先生は、この春に退職されます。子どもたちを愛し、学校を愛してくださった校長先生の思いを、残された私たちが引き継ぎ、育てていかなければと強く思っています。

薔薇二本、一本は花大にして、一本は小、
大大をほこらず、小小をはじず
力の限り咲けるがうつくし

これは、芦田恵之助先生の言葉です。名前が違うように、姿形だけでなく、内面についても、一人として全く同じ子ども・教職員はおりません。それぞれが、自分の良さを認め、自分の可能性を信じて精一杯生きることができる学校でありたいと願っています。「友達が好き。先生（同僚）が好き。学校が好き。」と誰もが思える学校であるために、今後もこの研究実践を深めていきたいと思えます。

終わりになりましたが、本校の研究に対して温かいご支援とご指導をいただきました雲南市教育委員会を始めとする関係諸機関、多くの方々に、厚くお礼申し上げます。

平成 31 年 3 月

教頭 藤原富貴子